

がん対策日本一に向けた取組の強化【一部新規】 H31 394,138 千円 (H30 214,876 千円)

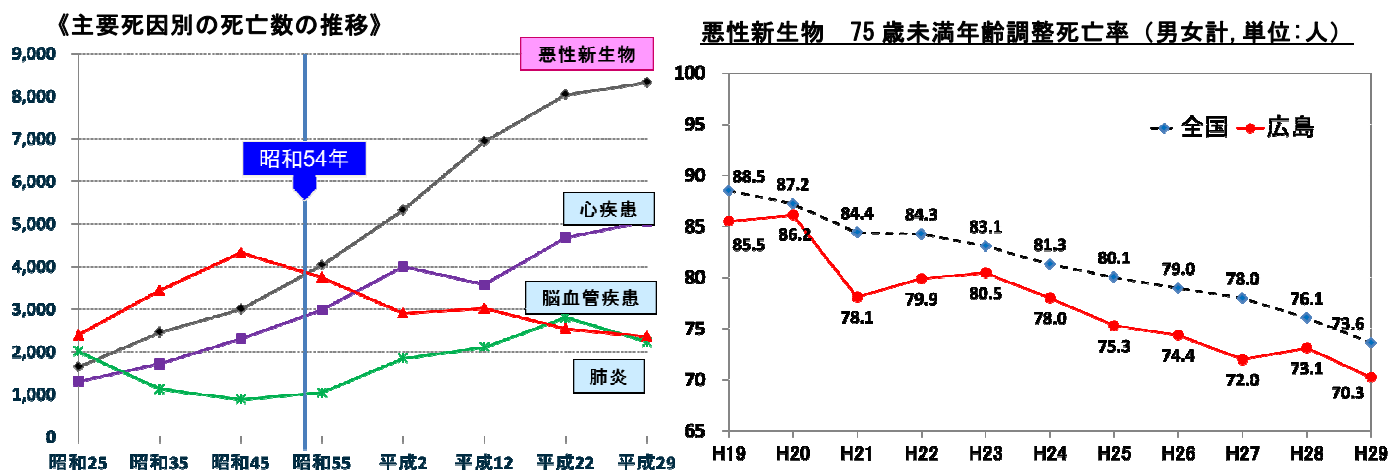
1 ねらい

「がん対策日本一」の実現を目指した総合対策の加速化を図るため、行政、県民、保健医療関係者、事業者等の関係者が相互に連携協力し、県民総ぐるみとなったがん対策を推進する。

2 現状・課題

【現状】

- がんは、昭和 54 年から死亡原因の第 1 位
- がんで死亡する者は全死亡者の約 3 割で、高齢化の影響等により罹患数、死亡数ともに増加傾向
- 本県の平成 29 年の「がんの 75 歳未満年齢調整死亡率（人口 10 万対）」は 70.3 人で、全国平均を下回っており、減少率は全国トップクラス



【課題】

- がん検診受診率は 40%前後と伸び悩んでおり、たばこ等の生活習慣を含め、対策が県民一人ひとりの行動変容につながっていない。
- 全ての二次保健医療圏にがん診療連携拠点病院が整備され、がん医療の均てん化が進んでいるが、病理医が不足しているなど、医療の質の面で不十分な点もある。
- 医療の進歩によりがん患者の生存率が向上し、がんと共生する時代となっており、治療と仕事の両立支援など、ライフステージに応じたがん対策、がん患者支援の必要性が高まっている。

3 成果目標（ワーク 52-①）

成果指標	現状値	目標値
がん検診受診率	胃がん	50%以上 (H34)
	肺がん	
	大腸がん	
	子宮頸がん	
	乳がん	

4 事業内容

(1) がん予防・がん検診

- ① たばこ対策推進事業（1,738千円）
 - ・受動喫煙防止対策の推進【新規】

健康増進法に規定する新たな受動喫煙防止対策等について県民及び飲食店等に周知し、施設管理者に課せられる受動喫煙防止対策を徹底
- ② ウイルス性肝炎対策（11,457千円）
 - ・肝疾患コーディネーターの養成・活用

市町の保健師・企業の健康管理担当者等を「肝疾患コーディネーター」として養成し、肝炎ウイルス検査の受検勧奨や陽性者に対する受診勧奨を実施
 - ・肝炎患者重症化・肝がん予防推進事業

「肝疾患患者フォローアップシステム」を活用した継続的な受診勧奨及び定期検査費用の助成等により、肝炎の重症化・肝がんへの進行を予防
- ③ がん検診受診率向上対策事業（41,524千円）
 - ・職域がん検診推進事業

がん検診未実施の協会けんぽ加入企業に対する検診実施の促進
 - ・市町がん検診個別受診勧奨支援事業

市町が実施する受診勧奨・再勧奨の手法等の改善への支援
 - ・「がん検診一斉受診月間」の実施

職域の女性が受診しやすい環境を整えるなど短期集中型の受診強化事業を実施
- ④ がん検診精度管理推進事業（5,038千円）

市町が実施するがん検診の精度向上のため、専門家による評価・助言、研修等を実施

(2) がん医療

- ① 広島がん高精度放射線治療センターの運営（215,546千円）【一部新規】
 - ・広島がん高精度放射線治療センターを指定管理者により運営
 - ・指定管理者に対する運転資金の貸付
- ② がん診療連携拠点病院機能強化事業（96,000千円）

がん診療連携拠点病院が実施する機能強化事業に対する補助

(3) がんとの共生

- ① 緩和ケア推進事業（13,479千円）

在宅及び施設における緩和ケアの充実並びに緩和ケアに携わる医師、看護師及び薬剤師の資質向上研修の実施
- ② がん患者・家族相談支援事業（4,652千円）【一部新規】
 - ・情報提供・相談支援

がん患者及びその家族等への情報提供・相談体制の充実並びにがんピアサポーターの養成
 - ・治療と仕事の両立支援

医療機関における就労支援体制構築に向け、拠点病院にモデル的に就労支援コーディネーターを配置し、実効性のある仕組みを検討、社労士による就労相談・就労支援コーディネーター研修の実施
 - ・がん患者の妊孕性（妊娠できる能力）温存治療への支援

妊孕性温存治療の普及啓発及び治療費助成
- ③ Teamがん対策ひろしま推進事業（4,704千円）

がん予防・検診、患者団体支援及び就労支援に総合的に取り組む「Teamがん対策ひろしま」登録企業の拡大を図るとともに、その取組を支援し、地域全体でのがん対策を推進